

書名：**137 億年の物語**

著者：クリストファー・ロイド

訳者：野中香方子

出版社：文藝春秋

出版年月：2012年9月

ISBN：9784163742007



推薦者

小西正雄

鳴門教育大学大学院教授

人文・社会系教育部

床にゴロンと横になってうたた寝するときの枕がわりにちょうどいい。なにしろ分厚い。厚さ約 35 ミリ、506 ページの大作である。ならばきっと難解で…という先入観は、しかし見事に裏切られる。まずはビジュアル。字も多いが豊富な写真・挿図が好奇心をくすぐる。つぎに著者。これだけの大部の本となると多数の著者が健筆を競うからおのずと堅苦しくなりそうなものだが、じつは本書の著者は驚くべきことに一人である。だからトーンが揃っていて波乗りのようなスムーズな読み進めが可能である。

しかし、なんと言っても圧巻はその内容である。副題ならびに宣伝用コメントには「宇宙が始まってから今日までの全歴史」「理系と文系が出会った初めての歴史書」とある。なにしろビッグバンからリーマンショックまでが、ほとんど濃淡なく一気に綴られるのである。ここには歴史学も人類学も天文学も生物学も、そんな分け隔てはない。つなげて考えると世界はこんなにも装いを変えて眼前に現れてくれるのかと驚嘆せざるをえない。各ページの袖に記された歴史時計も楽しい。人類の誕生とその後のドタバタなど、137 億年を 24 時間に例えれば、ほんの 39 秒間の戯れにすぎないことがわかる。その事実から、読者は否応なく我々の未来を考える茫とした思いに引き込まれるだろう。

本書は決して専門書ではない。しかし「学問をめざす」とは本当はこういうことなのだということを教えてくれる。4 年間の貴重な大学生生活がコマ切れ知識の収集と目先の課題解決に翻弄されてしまうのは、あまりにも空しい。林先生に倣って言えば、こういうトンドモ本を読むのは、まさに「今でしょ！」ということなのだ。

第 1 部：母なる自然 「生命はどこから来たか」など 10 項

第 2 部：ホモ・サピエンス 「心の誕生」など 7 項

第 3 部：文明の夜明け 「金属、馬、車輪」など 12 項

第 4 部：グローバル化 「世界はどこへむかうのか」など 13 項

